

| | | | | | | | |
|---|---|--------------------|-----------|----------------|-------------------|------|---------------|
| 科目ナンバリング | | U-LAS70 10001 SJ50 | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | ILASセミナー：ジェンダー論 ILAS Seminar: Gender Studies | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 石岡 学 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール(対面授業科目) |
| 開講年度・ 開講期 | 2026・前期 | 受講定員 (1回生定員) | 12(12)人 | 配当学年 | 主として1回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 水5 | 教室 | 教育院棟演習室22 | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | ジェンダー | | | | | | |
| (総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。) | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | |
| この授業では、ジェンダーに関する基礎的な知識を獲得し、ジェンダーに関わる諸問題への理解を深めることを目指す。受講生の調査・報告とそれに基づく討論をメインとする形式で行うことで、基礎的なアカデミックスキルを向上させることも目標とする。 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| ジェンダー論に関する知識を獲得するとともに、ジェンダーに関する諸問題について考察する能力を養う。確かな根拠に基づき、ロジカルに自身の主張を発表し、議論を深めていくための技術を身につける。 | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | |
| この授業では、ジェンダーの視点から社会事象をみるとはどういうことなのか、その基本認識の形成に努める。 当たり前なことではあるが、ジェンダー論は「教義」ではないので、唯一絶対の正解を頭に叩き込むことがジェンダー論の学習ではない。しかし、世間を見渡すと、そのような捉えられ方をされている側面も否定できず、その反動的あらわれとして「ツイフェミ」などへの反発も目立つようになってきている。これらは、いずれもジェンダー論が表面的にしか受け止められていないことの反映であると考えられる。 この授業では、こうしたジェンダー論に対する表層的理解からの脱却を図ることを目指す。今年度は特に「女子枠」という問題について照準し、なぜこの問題が賛否両論を巻き起こしがちであるのかを丁寧に解きほぐしていく。そして、この問題の本質が教育以外の領域(政治、労働、家族、恋愛等)におけるジェンダー問題にも通底するものであることを理解することを目指す。 | | | | | | | |
| 第1回：イントロダクション 授業のねらいを説明し、第2回以降の授業の進め方を周知する。 | | | | | | | |
| 第2-4回：ジェンダーに関する(超)基礎知識の獲得 入門的文献の講読を通じて、ジェンダー論を学ぶうえで知っておくべき最低限の知識共有をはかる。 | | | | | | | |
| 第5-7回：京都大学のジェンダー・バイアスについて考える 文献講読や受講生による調査・討議を通じて、ジェンダー的視点から京都大学の現状を批判的に問い直す。 | | | | | | | |
| 第8-10回：女子枠について考える 文献講読や受講生による調査・討議を通じて、女子枠をめぐる論点・争点は何かを整理し、問題への本質的理解を深める。 | | | | | | | |
| ILASセミナー：ジェンダー論(2)へ続く | | | | | | | |

ILASセミナー : ジェンダー論(2)

第11-13回 : equalityとequityについて考える

国際比較の視点を取り入れながら、入試のあり方、ひいてはメリトクラシー（能力主義社会）のあり方について問い直す。

第14回 : 全体のまとめ・振り返り

第15回 : フィードバック（方法は別途連絡する。）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点は、授業参加への積極性・主体性を総合して評価する（60%）。また、学期末には授業全体を通しての報告・議論をふまえたレポートを課し、これを評価する（40点）。

成績評点は素点（100点満点）とする。

なお、3分の2以上の出席がなければ、いかなる理由があっても単位を認めない。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中のグループワークやディスカッションを充実されるために、授業時間外にも相応の予習・復習の時間が必要である。よって、楽に単位を取りたいと考える人には受講をお勧めしない。

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】